

KIRIN

キリン株式会社

神奈川県立鶴見高等学校 生物部



神奈川県立鶴見高等学校 生物部のみなさん

キリン横浜ビアビレッジで「自然の恵みを感じるツアー」を体験！

キリン横浜ビアビレッジでは、ビール製造工程見学の後、緑豊かな庭園・ビオトープを散策しながら、四季折々の植物や生きものの賑わいを感じられる『自然の恵みを感じるツアー』が実施されています。今回、地元の鶴見川の生態系調査をしている鶴見高校生物部がこのツアーとビオトープ視察を体験。そのあと、キリングroupが取り組む『長期環境ビジョン』について学びました。

キリングroupの飲み物は、自然のめぐみからつくられています。

「子どもたちの世代に美しい地球を残したい」、それは多くの人々の想いであるとともに、キリンの想いでもあります。なぜなら、キリンの飲みものは農産物と水を使用して容器に詰めてお客様にお届けしていますが、その過程で発生するCO₂による地球温暖化が原料である農産物と水に影響を与える、まさに自然のめぐみに支えられた事業だからです。そのことを見つめ直し、キリンが取り組まなければならないと考えて定めた方向性が「キリングroup長期環境ビジョン」です。

キリングroup長期環境ビジョン 2050年目標

キリングroupは、子どもたちの世代に美しい地球を残し、お客様に飲みものをお届けし続けるために、重要な原材料である「自然に育まれた原料」「豊かな水」「やさしいパッケージ」を持続可能な形で利用し、「地球温暖化」に対応するために事業を通じて排出されるCO₂排出量を2050年には半減することを目指して取り組みを始めました。こうすることで、2050年には私たちの事業に係わる環境負荷を、地球が賄うことのできる能力とバランスさせていきます。「長期環境ビジョン」は、豊かな地球のめぐみを将来にわたって享受し引き継ぎたいという想いを、バリューチェーンに係わるすべての人々と共につないでいきます。

キリン「高校生環境研修」

今回の研修では、スリランカの紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得支援や、生産量がピーク時の4分の1にまで減少している遠野ホップ畑の現状とホップ畑が存在することの意味を示すための生きもの調査などについて学びました。また、ビオトープ視察の際は、キリンが連携している、「NPO法人鶴見川流域ネットワーク」の方々と偶然に出会い、地域の自然についての説明を聞くことができました。



ビオトープ視察



自然の恵みを感じるツアー

神奈川県立鶴見高等学校 生物部

感想



高梨友樹さん(3年)

今回の研修を通して、持続可能なエネルギーの重要性について学んだ。今後この世界を担っていくにあたり、持続可能なエネルギーをどう増やしていくかが課題であると感じた。



鈴木未波さん(2年 部長)

ホップの栽培など、大切な技術が次世代に伝わらず減りかけていることを知り、驚いた。多くの人が同じようにこの現状を知らないと思うので、今後の活動を通して同世代にも伝えていきたいと思った。



天野来紀さん(1年)

キリンビールがビールだけでなく、「ビールを作り続けるための環境」を作ることには力を入れているということを知った。企業の環境問題への取り組みに興味を持った。



折茂 祐輔さん(1年)

環境問題に力を入れている企業が、もっと増えればいいなと感じた。私自身もできることから環境への取り組みを進めていきたい。



鈴木りりこさん(1年)

環境問題に対して、少しでも関心を持つこと、少しずつでも取り組んでいくことが重要なのだと思った。



濱崎 亮さん(1年)

環境の悪化は人間の生活によって起こってしまったことなので、人間自身の手で復元していかねばならないと感じた。持続可能な社会を目指し、少しずつでも日々の生活を変えていきたい。